

学会記事

2021年度 第5回執行理事会議事録

日程：2021年10月9日（土）13:00-18:00

【WEB会議】

出席：磯崎、中澤、佐々木、松田、高嶋、矢部、辻森、星、亀高、小宮、坂口、平田、ウォリス、岡田、緒方、狩野、岩部（監事）

欠席：大藤

事務局 澤木

*定足数（過半数：9）に対し、17名の出席

*前回議事録（214回）の内容が確認され確定した。

報告事項

1. 全体的報告

・学会運営検討タスクフォース（佐々木）
12月の理事会で具体的な年会費、大会参加費の変更案を行う予定。そのために年代毎の入退会者の実態をより詳細に把握する必要がある。年代別の会員動向などについて整理した資料をもとに議論を行った。

2. 運営財政部会（緒方・亀高）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>

・第63回藤原賞受賞候補者推薦依頼（締切12月15日）【→geo-flash、ニュース10号掲載】
・石油技術協会令和3年度秋季講演会（10/22、オンライン開催）への協賛依頼があり、承諾した。

・資源地質学会 国際シンポジウム”Gold Exploration in the Circum-Pacific”（10/14、オンライン開催）への協賛依頼があり、承諾した。

・NPO日本地質汚染審査機構 第4回水循環シンポジウムへ（誌上開催、抄録集10月中旬発行予定）の後援依頼があり、承諾した。

・第59回アイソトープ・放射線研究発表会（2022年7月開催予定）への参画依頼があり、例年通り「後援」として参画することとした。

・例年後援している「こどものためのジオ・カーニバル」（於大阪市立自然史博物館）より、後援依頼があったが、直後今年度第21回の行事中止の連絡があった。

・新潟大学旭町学術資料展示館企画展示「殻」展（地質学会後援）開催報告があった。開催期間7/21-8/29、夏休みの中の子供を中心に638名の来場者があった。

・JSEC2021（第19回高校生・高専生科学技術チャレンジ：10/4応募締切済）（地質学会後援）は、12月最終審査会、表彰式をオンラインで開催する旨連絡があった。

・地学団体研究会より、第75回総会で採択した以下3点の声明の送付があった。「学術会

議会員推薦候補6名の即時任命を求め、日本学術会議の独立性を侵害することに反対する」、「核のゴミの地層処分」に強く反対する」、「福島第一原発の抜本的な地下水流入防止策なしの汚染水海洋放出に反対する」

<会員>

1. 今月の入会者（2名）

正会員（2名）：西野佑紀、原 晴彦（除籍再入会）

2. 今月の退会者 なし

3. 今月の逝去者（正会員1名）

中島照雄（逝去日：2021年9月6日）

4. 2021年9月末会員数

賛助：27、名誉：40、正会員：3296〔内訳正：3172、院割：116、学部割：8〕合計3363（昨年比-75）

<会計>

特になし

<その他>

・会員管理システムのクラウド化検討状況の報告があった。委託予定のウェッジソフトウェア（株）との間で、契約書の内容を詰めている。微細修正中。クラウド化後の学会HPの保守対応については、広報委員会も含めて相談の必要がある。

3. 広報部会（坂口・小宮）

1) 広報委員会（坂口）

・地質学雑誌付録として刊行していた「日本地質学会News」は、地雑完全電子化に伴い、独立した冊子体として新たなISSN（国際標準逐次刊行物番号）を登録申請中。

・News誌のバックナンバーPDF（最新～2009年1月号）を学会HP上で公開した。過去分も順次作業を進める。

4. 学術研究部会（辻森・ウォリス・星）

1) 行事委員会（星）

・名古屋大会サイトのe-poster、動画の大会参加者向け閲覧期間を10/6で終了し、講演要旨を一般公開した。

・名古屋大会で開催した「地質学露頭紹介」の実施報告（露頭の簡単な紹介を含む）をニュース誌10月に掲載予定。盛況だったため今後も定期的実施したい。年1回（大会時に）開催にするか、ショートコースのように複数回開催にするか今後検討。JpGU大会時に地質学会主催イベントとして開催すれば非会員への宣伝効果も期待できる。2022年大会での開催について連合事務局に問い合わせる。

・2022年早稲田大会について、LOCの笠間事務局長、亀尾巡検案内書編集長と協議。巡検案内書の冊子体は作成しない。大会運営業者（イベント業者）は執行理事会・事務局が決める。大会テーマ・キャッチフレーズを決めるために、11月執行理事会に笠間事務局長も参加し検討予定。

・第5回ショートコース10月3日（日）開催。参加者：午前76名、午後78名。現在、参加

者アンケートを集計中。第6回は12月または1月に開催予定。

・JpGU2022年大会学協会プログラム委員について行事委員会で検討し、松崎賢史会員（AORI、海洋地質部会行事委員）と上澤真平会員（電中研、火山部会行事委員）を選出しJpGUに報告した。

2) 専門部会連絡委員会（辻森）

特になし

3) 国際交流委員会（ウォリス）

・IGC 37（2024韓国）巡検について、9/27にzoom会議を行い、現状確認を行った。

4) 地質標準化委員会（辻森）

特になし

5. 編集出版部会（大藤・狩野）

1) 地質学雑誌編集委員会（大藤）

(1) 編集状況報告（2021年10月1日現在）

・2021年投稿論文：33〔内訳〕論説17（和文16、英文1）、総説1（和文1）、レター6（和文6）、報告2（和文2）、ノート3（和文3）、口絵3（和文2、英文1）

査読中：23、受理済み：4

(2) その他

・J-STAGE Dataへの利用申請を開始した
・次回執行理事会で、地質学雑誌電子版投稿編集出版規則の「細則3」（オンデマンド版、別刷等の価格設定ほか）について提案予定。

2) アイランドアーク編集委員会（狩野）

3) 企画出版委員会（小宮）

特になし

6. 社会貢献部会（松田・矢部・高嶋）

1) 地学教育委員会（高嶋）

・2021名古屋大会のジュニアセッションの結果を発表した。全15件の応募のうち8件が入賞。

【優秀賞 3件】J1-P-14東京学芸大学附属高等学校（和田恵佳・馬上雪乃）/J1-P-5東京工業大学附属科学技術高校（人見あかりほか）/J1-P-13 岐阜県立岐山高等学校（市川太一ほか）

【奨励賞 5件】J1-P-3群馬県立太田女子高校理科研究部地学班（伊集院早希ほか）/J1-P-12宮城学院高等学校自然科学班（須藤璃音）/J1-P-7熊本県立宇土高等学校科学部地学班（2）（岩崎弘弘ほか）/J1-P-9愛媛大学附属高等学校（板橋真琴）/J1-P-4鹿児島県立国分高等学校サイエンス部地学班

2) 地質技術者教育委員会（佐々木）

・名古屋大会業界研究サポートサービスの参加者アンケートを集計中。結果を整理して学会HPで報告予定。

・キャリアビジョン誌を今年度も発行するため、参加企業等の募集中（10/31締切）。今年は地域に根付く企業の参加を促すため、掲載を全国対象か地域対象（地方別）に分ける企画としている。

3) 生涯教育委員会（矢部）

特になし

- 4) 地震火山地質こどもサマースクール (松田)

特になし

- 5) 地質の日 (矢部)

特になし

7. その他執理事会の下に設置される委員会

- 1) 利益相反マネージメント委員会 (中澤)
特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

- 1) ジオパーク支援委員会 (委員長天野: 代理平田)

・日本ジオパーク新規認定 (1件) 土佐清水ジオパーク。日本ジオパークは計44件 (うちユネスコ世界ジオパークは9地域) となった。

・今年度世界ジオパークへの申請1件が予定されている。昨年まで地質学会に依頼されていた世界申請のための机上審査は、今後日本ジオパーク学術支援連合 (JGASU) で担当する。

- 2) 地学オリンピック支援委員会 (高嶋)

・第14回日本地学オリンピックの応募開始となった (応募期間: 2021年9月1日~11月15日)。

- 3) 支部長連絡会議 (平田)

特になし

- 4) 地質災害委員会 (松田)

・10/8JpGU環境災害対応委員会において地質学会の活動報告を行った (出席委員: 小荒井・川畑)。以下、報告内容。

日本地質学会からの災害に関する活動報告: 2020年後半~2021年9月まで地質災害に関する情報公開 (ウェブサイト) を行った。

→令和3年2月 福島県沖を震源とする地震

<<http://www.geosociety.jp/hazard/content0100.html>>

→令和2年台風10号による災害の情報

<<http://www.geosociety.jp/hazard/content0099.html>>

→令和2年7月豪雨災害に関する情報

<<http://www.geosociety.jp/hazard/content0098.html>>

- 5) 名誉会員推薦委員会 (佐々木)

・次回執理事会で次年度委員会メンバーを推薦し、12月理事会で承認いただく予定。

- 6) 各賞選考委員会 (中澤)

・12月1日締め切りで2022年度学会各賞の募集を開始した。ニュース誌9月号掲載。

- 7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (委員長 堀 利栄)

特になし

- 8) 連携事業委員会 (中澤)

特になし

9. 研究委員会

- 1) 地質環境長期安定性研究委員会 (委員長 吉田英一)

特になし

- 2) 南極地質研究委員会 (委員長 小山内康人)

特になし

10. その他

- 1) 京都大学元教職員による研究不正行為に係る最終の調査結果が大学HP上で公表された (2021年9月28日付)。調査の結果、複数の不正行為が認定された。

I 審議事項

1. 『日本列島地質総覧—日本列島の地史・地質環境・災害—』(仮) (産総研監修, 朝倉書

店) への編集協力依頼について (継続審議案件)

引用方法等原稿に不備が見受けられるため、地質学会として指摘、修正依頼を行った。修正内容を確認した後に、地質学会に対する協力依頼に対して承認予定。

2. 表彰制度の見直し (その2) について

国際賞の名称変更 (案: Akiho Miyashiro Award) や、各賞の対象期間の延長などを議論した。継続審議。

3. 学会各賞の応募書類書式について、一部変更を行う。(今回の2022年度候補者の選考から適用する)。主な変更点は以下の通り。

・候補者のORCID番号, Research Map記入欄を経歴欄ページに設ける。

・その他の形式は任意とする。

4. 学会ECS懇親会報告と学会への提案について

若手間の交流と意見聴取を目的として若手会員有志主催による「学会ECS (Early Career Scientists) 懇親会」が開催された (10/1, zoom)。開催報告とともに「学会への若手からの提案」として、学会若手の会及び若手メーリングリストの設立、学術大会の開催時期及びセッションの再考、年会費の改定、巡検やショートコースの継続及び拡充執理事会宛に提案され、対応を議論した。セッションの再考や年会費の改定については、学会運営検討TFなどで継続審議が必要。メーリングリストは、若手からの意見聴取上も有用であるため、早期設立して試験的運用を開始することとした。

以上

2021年11月13日

一般社団法人日本地質学会執理事会

会長 (代表理事) 磯崎行雄

署名人 執理事 中澤 努

訃報

本会の次の方々方が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

名誉会員 唐木田芳文 (1月21日)
石井健一 (2月23日)
三梨 昂 (3月25日)
星野通平 (4月29日)
糸魚川淳二 (11月11日)

正会員 中里俊行 (2020年9月14日)
茂野忠良 (2020年9月22日)
仲 二郎 (1月20日)
岡田賢樹 (1月22日)
榊原謙一 (3月9日)
三好 誠 (5月4日)
留岡 昇 (6月1日)
中島照雄 (9月6日)
鳥居昭三 (10月25日)
田中久雄 (11月21日)